



難聴について、皆さんにお尋ねします

- 1) 難聴の人は怒りっぽい？ (YES, NO)
- 2) 難聴の人はニコニコしている？ (YES, NO)
- 3) 難聴の人は付き合いが良い？ (YES, NO)
- 4) 歳をとると難聴になる？ (YES, NO)
- 5) 難聴になると、認知症が進行する？ (YES, NO)

2

CASAって何だ？

- 傘？
- かさばる？
- カサブランカ、映画の題名？
- 家具屋さん？ CASAという店が実在する
- Conversation Activating System ASADA 会話力賦活システムの略です
- CASAmimiyolinaは登録商標です

3

聴力は高齢者でも十分、残っている

- 聴覚は中枢神経系の機能の中で、最後まで残る
- (例)聴性脳幹反応 - 脳死判定に利用されている
- (例)全身麻酔中の記憶 - 時折、報告される
- 難聴者は悪口がよく聴こえる？
- 難聴者は読唇術が得意？
- パチンコ店の騒音の中で、会話が出来るのは何故か？

4

残っている聴力を補助して、 再び音楽の世界に呼び戻す - CASAは健康年齢を高める -

- 大きな冰山(聴力)は、水面上にその姿が見えなくても、水面下にまだまだ沢山、氷が残っている。CASAにより、その氷を持ち上げるか、CASAにより、水面を下げる事が出来れば、冰山(聴力)は再び現れる。
- でも、冰山を持ち上げるのは大変、水面を下げるのも大仕事。
- CASAという通信アンテナを、浮いている氷に打ち込むことだったら、すぐに出来る。

5

会話力って何だ？

- まずは聞こえていることが大切
- 会話(対話)とは、双方向性に相対する二人が会話を楽しむこと
- 単に話声が大きく聞こえているだけでは、不十分
- 会話の内容を理解するというステップが含まれる
- 会話力はCASAを開発する中で生まれた、新しい概念。
- 数値として表すことが出来るので、補聴器や助聴器とお互いに、会話力・表情・積極性について、比較することが出来る。個人の経過表(会話力健康手帳)を作ることが出来るようになり、健康管理に役立つ。

6



良く聴こえるというデータはあるの？

- 実用新案: No.3211617(特許庁、2017年7月5日)
- 登録商標: CASAmimiyolina (2017年10月20日)
- 学会報告は一年間で、10回を越えた
- 日本自立支援パワーリハ学会 (東京、2017年) (第1~4報)
- 全老健 (愛媛、2017年) (第5報)
- 癒しの環境研究会 (東京、2017年) (第6~8報)
- 日本臨床モニター学会 (東京、2017年) (第9報)
- 日本自立支援パワーリハ学会 (東京、2018年) (第10~12報)

補聴器・助聴器とCASAはどこが違うの？

比較項目	CASA	補聴器
目的	会話(対話)が成立すること	良く聞こえること
汎用性	複数の人が使う	個人が使う
片耳か、両耳か	他の人にも使える。どこでも使える 両方の耳の聴力を利用する	片方の耳を使用するが多い
基礎データ (製品の性能)	会話成立率の基礎データあり	オープンな比較データなし 社内資料あり
会話力 健康手帳	ICレコーダー・ヘッドフォン それぞれの製品の機能表示あり その個人の会話力の履歴を 点数化して、残すことができる	客観的なデータは残らない
ハウリング	ヘッドフォンを外した時に起こることがある ハウリングの音は比較的小さい	起こる (音声の受信と送信距離が近い)
補聴器との併用	出来る・支障なし	—

CASAを使うとどんなメリットがあるのか

- 短期的なメリット:
 - 会話力が増強される
 - 笑顔が増える
 - 会話に積極的になる
 - 家族やスタッフと話が出来る
 - 話の内容を覚えていて、話に連続性・関連性が出来る
 - 認知症と思われていた人が実は難聴が主な原因であることが分かる
- 中・長期的なメリット:
 - 人と話をするのが好きになる
 - 笑顔が増える
 - 記憶力が戻ってくる
 - 精神的に安定する(怒ったり、落ち込んだりすることが少なくなる)
 - 認知症の人の反応性が保たれる。人によっては、反応性が改善される。

CASAを普及させるにはどうすればよいか

- プロトタイプのカサをコンパクトにする
- オリジナルの製品を作る(試作機を開発中)
- 登録商標: CASAmimiyolina (2017年10月20日)
- CASAのシステムで得られたデータと比較しながら、同等の成績が得られることが必須
- 共同研究 (淀川キリスト教病院)



(万治の石仏あたり、長野県、2012年) (温泉寺、長野県、2012年)